2021 年 12 月

日本語･学習支援教室 10 月 15 日現在の活動状況についてのアンケート

公益財団法人横浜市国際交流協会 YOKE

実施目的：コロナ禍における横浜の日本語・学習支援教室の現状を把握するとともに、アンケートの結果から得た、課題や工夫を共有し教室の支援に役立てる。

実施期間：2021 年 10 月 18 日～28 日

対　象　：135 教室
日本語・学習支援教室データベース（横浜）掲載団体皆様（地域日本語教室および学習支援教室）
http://www.yoke.or.jp/jdatabase/search.html

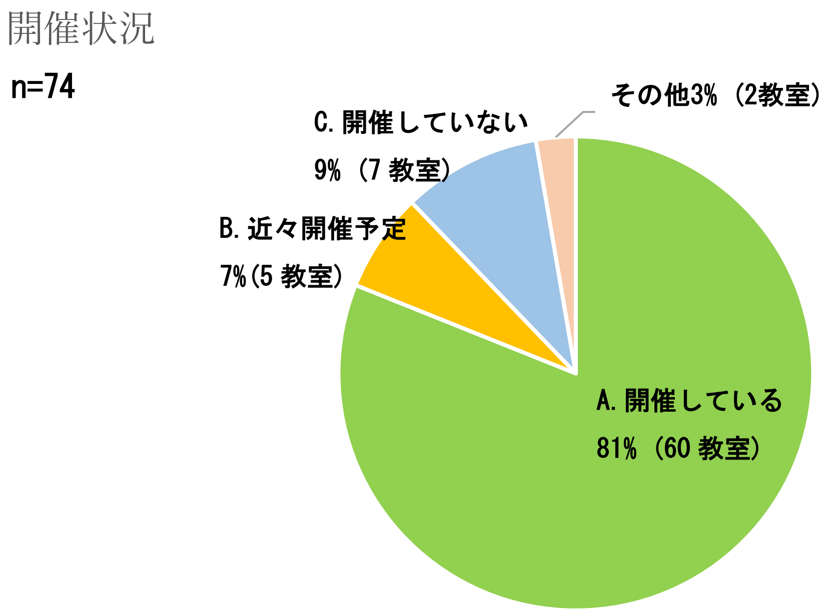
回　収　：74 教室（同じ団体が複数の教室を開催している場合があります）　回収率 55％

（注）回答内容は、一部抜粋または、趣旨を変えない範囲で一部表現を変更したところがあります。

【質問１】　開催状況

□2021 年 10 月 1 日現在の教室活動状況*について教えて下さい

教室の開催状況	全体		主に大人対象の教室		主に子ども対象の教室	
	教室数	割合	教室数	割合	教室数	割合
A.開催している	60	81%	49	78%	11	100%
B.近々開催予定	5	7%	5	8%	0	0%
C.開催していない	7	9%	7	11%	0	0%
その他(教室閉鎖)	2	3%	2	3%	0	0%
合計	74		63		11	

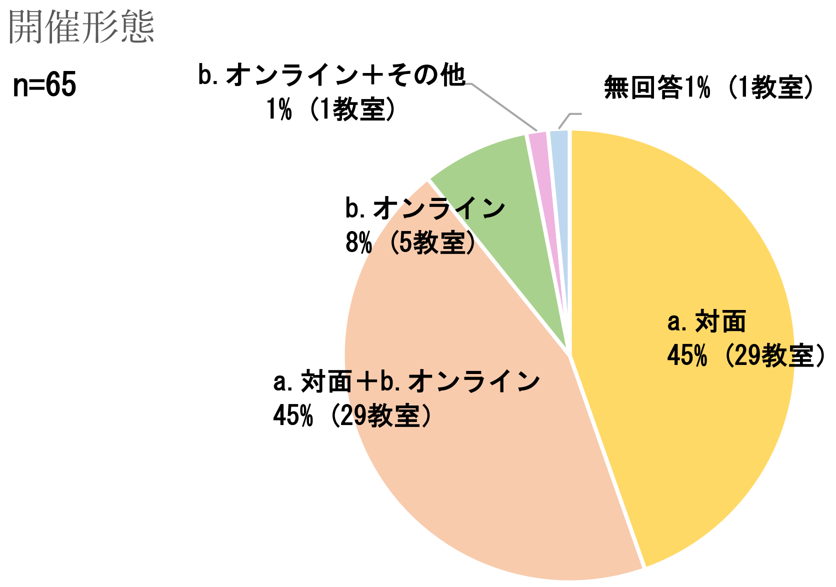


【質問２】　開催形態の工夫

□質問１で「1 開催している」「2 近々再開予定」を選択した団体の方は、どのような形で開催されますか

（1）形態

教室の開催形態	全体		主に大人対象の教室		主に子ども対象の教室	
	教室数	割合	教室数	割合	教室数	割合
a.対面	29	45%	22	41%	7	64%
a.対面＋b.オンライン	29	45%	26	48%	3	27%
b.オンライン	5	8%	4	7%	1	9%
b.オンライン＋その他	1	1%	1	2%	0	0%
無回答	1	1%	1	2%	0	0%
合計	65		54		11	



（2）対面での工夫

□質問２について詳しく教えてください。（方法・内容及びメリット・デメリット等）

＜会場について＞

・人数を定員より減らしている。

・長時間滞在を避け、学習後速やかに退室。

・１ｍ～２ｍ以上距離を保ってレイアウトを組んでいる。

・通常よりも広い部屋、１部屋→２部屋の使用。

・座り方は、斜めに対面か、一席空けるようにしている。

・施設の規定を守って開催している。

＜物品等の導入＞

・パーテーション、フェイスシールド、検温器、消毒の使用

＜開催形態の工夫＞

・少人数やマンツーマン

・２～３部制にしている。

・学習に問題がない子供は休みにしてもらい、人数調整をしている。
・学習者は週１回のみ参加可にしている。
・一部のクラスを休講している。
・時間短縮している。
＜その他＞
・ワクチン接種を条件にしている。
・換気を 15 分ごとに行う。
・参加者、使用した部屋の記録をとっている。
・新規の方は都度受入れの判断をしている。
・以前から在籍していた学習者のみ対面対応。
＜メリット＞
・双方の空気感が伝わりやすく、意識を共有しやすい。
・コミュニケーションを取りやすい。
・手元や教材が見やすい。
・直接子供たちの様子を把握できた。
＜デメリット＞
・授業に適した公共施設の確保が困難
・マスクで口元や表情が見えないため、言葉が伝わりづらい。

（3）オンライン活動での工夫（方法、内容・メリットデメリット等）
＜利用システムと開催形態＞
・Zoom,Skype,LINE による開催
・メールで作文添削
・サポーターは自宅からの活動
・用事がある学習者には zoom 開催
＜教材の工夫＞
・オンライン教材の使用（文化庁「つながるひろがる　にほんごでのくらし」など）
・独自に作った教材の使用
＜メリット＞
・コロナに不安がある学習者・ボランティアも活動できる。
・海外在住者とも活動が可能。
・マスクなしで安心して話せる。
・緊急事態宣言中も活動ができた。
・ネット教材を使用でき、対面時より集中してできた。
＜デメリット＞
・語学学習は対面がより良いと感じている。
・小学校低中学年にオンライン指導は難しく感じる。手元が確認できず指導しづらい。
・オンラインでは１～２名のみ担当できるため、新たな希望者の受入れができない。
・オンライン希望者が多く、会としての活動がバラバラになりがち。
＜その他＞
・コロナの不安がなくなれば、オンラインはやめる予定。
・ボランティア同士、学習者同士のつながりが希薄になる。

・オンライン希望の学習者が多い。
・LINE でボランティア同士も密に連絡を取るようにしている。

【質問 3】　開催していない状況
□「3 開催していない」を選択した団体の方は、理由や代わりにされている工夫などありましたらご記入ください。
・学習者の生活環境が変わり、会を卒業した。
・会を閉じることにした。
・コロナ禍で学習者が集まらない。
・今年度は別事業実施のため（次年度以降再開予定）
・来季（2022 年 1 月）～に向けて利用施設と調整中
＜工夫＞
・学習者と個別に連絡をとっている。

【質問 4】その他
□共有したい情報や知りたいことなど（一部の意見を抜粋して反映しています）
・地域の日本語教室ということで、学習以外のイベントも重視してきたが、コロナ禍で開催できていない。他教室では学習者とのふれあいをどのような活動やイベントで進めているのか、是非アイデアをいただきたい。
・学習者、ボランティアが減少し、レベルの異なる学習者が一緒に学習できる方法を模索中。良い方法があれば知りたい。
・オンライン学習の位置づけ（会費や対面学習との併用など）
・来られるボランティアで手探りで始めてみることになった。状況次第で休会もあるかもしれないが、頑張ってみる。
・小学生対象の教室で、中学に進んだ生徒から継続希望があっても対応ができない。他教室を紹介できるようにしていきたい。
・支援者に学びの場がほしい。
・それぞれの地域でそれぞれの講座（ボランティア養成講座など）を実施しているので、サポーターが動画などで見られるようになるといい。市内どこの講座でも見られるようになることで、ボランティア活動が身近になるのでは。
・区がボランティア入門講座を企画しているので、期待している。